

## ワークショップ開催のお知らせ

### アメリカにおけるマインドフルネス心理行動療法の実際

ストレス削減に効果があることで注目されているマインドフルネス療法は、高齢者を対象とする治療や介護に有効なのでしょうか。マインドフルネス心理行動療法を高齢者の臨床で実施しているソーシャルワーカーを迎えて、ワークショップを開催します。

日時： 2016年7月18日（祝）13時30分—16時30分

場所： 早稲田大学 国際会議場 会議室

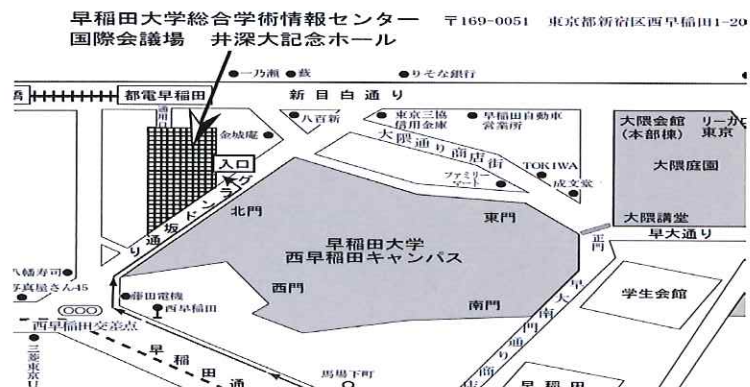
講師： Mariko A. Foulk 先生（ミシガン大学非常勤講師・ターナー老年科クリニック）

参加費： 8,000円（ミシガンネット会員は無料）

参加費・ミシガンネット年会費は、みずほ銀行 銀座通支店 普通口座 2009854にお振込みのうえ、当日振り込み領収書をご持参ください。

申し込み； NPO法人 高齢者を支える学際的チームアプローチ推進ネットワーク ホームページのお問い合わせフォームから申し込んでください。

Foulk 先生は、この10年間、マインドフルネスを高齢者の心理療法に活用しています。初期には、弁証法的行動療法（DBT）の一環として、マインドフルネスを取り入れていましたが、その後、Zindel Segal先生の薫陶を受けて、マインドフルネス認知行動療法（MBCT）を老年科クリニックで行っています。日本とアメリカで、老年科医療の学際的チームアプローチの理論と実践について、多数の著書を出版しています。



主催： 特定非営利活動法人 高齢者を支える学際的チームアプローチ推進ネットワーク（ミシガンネット）<http://michigan-net.jp/>